

第44回全国伝統的工芸品コンクール

JAPAN'S TRADITIONAL CRAFT COMPETITION 2019

2019年度 全国伝統的工芸品公募展 報告書



主 催： 一般財団法人 伝統的工芸品産業振興協会

後 援： 経済産業省・中小企業庁・日本商工会議所・全国商工会連合会・全国中小企業団体中央会

開催概要

全国伝統的工芸品公募展



名 称 2019年度 全国伝統的工芸品公募展
第44回全国伝統的工芸品コンクール／
JAPAN'S TRADITIONAL CRAFT COMPETITION 2019

開催主旨 長い間受け継がれた確かな伝統的技術・技法に、現代生活の様式に合致し、新しいアイデアや表現を取り入れた市場性のある伝統的工芸品を公募し、魅力あふれる製品の開拓を行う目的で行います。現代生活で使われるための需要を喚起し、国内だけではなく世界のマーケットにも通じる製品開拓を行います。

応募期間 2019年 10月 1 日（火）～ 11月15 日（金）

審査会 2019年12月11日（水） 一般財団法人 伝統的工芸品産業振興協会／東京都港区

審査結果発表 2019年12月12日（木）

応募総数 94工芸品／166点／応募者144名



審査員	役職名
宇 野 万貴子	株式会社 高島屋 MD本部 呉服部副部長 兼 日本橋店呉服部長
亀 山 渉	経済産業省 製造産業局 伝統的工芸品産業室 室長
北 村 仁 美	東京国立近代美術館 主任研究員
黒 川 廣 子	東京藝術大学 大学美術館 教授
小 稲 彩 人	岐阜県セラミックス研究所 専門研究員
田 中 敦 子	工芸ライター
棚 町 敦 子	「美しいキモノ」エディトリアル スーパーバイザー
林 克 美	日本伝統工芸士会 副会長
日 野 明 子	クラフトバイヤー
増 村 紀一郎	漆芸家 東京藝術大学名誉教授 重要無形文化財「髹漆」保持者
御手洗 照 子	有限会社 T - P O T 代表取締役
宮 川 孝 昭	一般財団法人伝統的工芸品産業振興協会 代表理事

山中漆器「むらくもカップ 朱・白」 有限会社浅田漆器工芸（石川県）



講評

ゆらめく炎の表情と色合いは、主張しすぎず飽きのこないデザインで、適度な薄挽きの木地は、手に持った時の使用感が魅力的である。使ってみたいと思わせる質感とシャープなデザインが現代生活に合うと評価され、選定された。



【有限会社 浅田漆器工芸】

生活の中で身近に使える山中漆器を提案しています。山中伝統の木地（ろくろ挽）から漆を塗る作業までこちらの工房で行っています。

気軽に入れる店内には国産の木にこだわった漆器類がならんでいます。

実生活の場で使って木のぬくもりを 味わってほしいとの願いから、漆器の伝統を受け継ぎながらもカジュアルな作品が多いのが特長です。

受賞者の声

弊社の商品むらくもカップが内閣総理大臣賞をいただき本当に光栄に思います。叢雲塗は決してメジャーな塗り方ではなく、あまり知られていない技法です。その技法を世に広めたいという思いで制作しました。木地、下地、上塗の職人一人抜けても成り立たない品物なので職人に感謝し毎日の仕事を精進したいと思います。

鎌倉彫 「渦文組皿」 奴田伸宏（神奈川県）



講評

金属のように見えて、実は木の素材で、持つと軽さを感じる意外性、食材をのせて楽しみたいと思わせる質感、完成度の高いデザイン性で、鎌倉彫の従来の概念を超えた感性が評価され、選定された。



【プロフィール】

平成 8年 鎌陽洞入門。3代目奴田伸岳、彫刻師佐藤広佐氏に師事
平成10年 造形作家加茂博氏に師事
平成15年 鎌倉彫創作展創作大賞受賞
平成17年 奴田伸宏 三橋肇 二人展
鎌倉彫創作展神奈川県知事賞受賞
平成19年 鎌倉彫創作展35回記念展鎌倉市長賞受賞
平成20年 第2回二人展
平成26年 全国伝統的工芸品公募展全国商工会連合会会長賞
平成28年 鎌倉彫創作展創作大賞受賞
令和元年 鎌倉彫創作展創作大賞受賞

現在、鎌倉彫久留美会副会長。塗工房(株)塗伸 代表取締役

受賞者の声

この度は、経済産業大臣賞を頂きましてありがとうございます。
また各方面の審査員の先生方にご評価を頂いた事は大変嬉しく思います。
今後は市場性を重視した品質の高い作品を作る事が今後の課題だと思います。
これからも精魂込めた作品を作って行きたいと思います。

経済産業省製造産業局長賞

仙台筆筥 「儉鈍式小筆筥 万年筆仕様」 菅野裕喜（宮城県）



講評

格子状の引き出しにあしらわれた革は、万年筆を収納するうえで細やかな配慮がされており、細部にわたる造形の美しさは従来の仙台筆筥とは異なるアプローチがみられる。また万年筆以外のコレクションアイテムにも応用できることも評価され、選定された。



【プロフィール】

1983年 京都生まれ5歳より仙台育ち

2003年 石巻高等技術専門学校 修了
一般大工の経験を経て

2006年 長谷部漆工入社 長谷部嘉勝に師事

2019年 仙台筆筥塗装部門 伝統工芸士 認定
宮城県青年技能者 表彰
全国伝統的工芸品公募展
経済産業省製造産業局長賞 受賞

受賞者の声

この度は大変名誉な賞を賜り光栄の至です。この受賞を励みに今後とも仙台筆筥で培った技術が多くの方の豊かな生活へ繋がる一助となる様、研鑽の日々精進してまいります。

中小企業庁長官賞

木工芸品 「田・凳（てん でん）」 羅琪 （東京都）



講評

畳のある部屋が少なくなりつつある現在においても素材を楽しめ、飛行機から見た田の風景をデザインするという若者らしい独自の発想と、品のよい色彩が評価され、選定された。

受賞者の声

まず初めに私の作品を評価してくださった審査員の皆様へお礼申し上げます。
高い伝統技術を誇る日本で私の作品を評価しこの賞を与えていただき本当に光栄に思っております。
今後も伝統工芸の技術と美しさを活かして現代の生活に溶け込むような作品を創っていきたいです。



日本商工会議所会頭賞

大阪浪華錫器「錫 タンブラー 群星（5色）」
大阪錫器株式会社 （大阪府）



講評

色鮮やかだが高級感があり、飲み物を美味しくしてくれそうな期待感が高まる。日本らしさのあるデザインは、錫を使うことへの親近感がある外国人にも向いており、輸出、さらには訪日外国人が増えるこれからの期待できると評価され、選定された。

受賞者の声

今回のタンブラーはベテラン・中堅・若手が各自の持つ能力を出しながらパソコンでの模様のデザイン構成に始まり、最後は社長による鋳型の細部の修整まで何度もやり直しを行い、やっと完成した製品なので賞に選んでいただけたこと、非常に嬉しく思います。これを機会に若いメンバーがやる気を出して、また新しいことにチャレンジしていただければと考えます。



全国商工会連合会会長賞

江戸指物「市松小引出箱」 根本一徳 （東京都）



講評

飽きがこなくシンプルで、普段から側に置いておきたいと思わせるデザイン。丁寧なつくりと、それを実現する技術が素晴らしいと評価され、選定された。

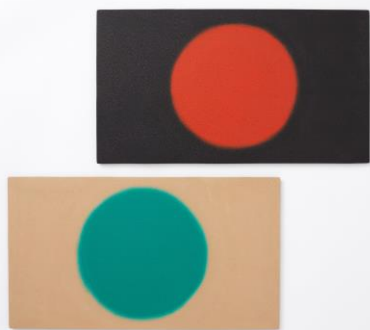
受賞者の声

ありがとうございました。
今回の作品は平成のオリンピック・パラリンピックのポスターの市松模様を生かしたものを作ろうと思って作りました。オリンピックで日本選手の「カツヤク」を願っています。



全国中小企業団体中央会会長賞

津軽塗「プレート」 白川明美 （青森）



講評

伝統的な七々子塗の技法を応用し、菜種の微粒を活かしたことで華やかに気兼ねなく使え、また使っていく変化が手頃な価格の中で楽しめる作品だとして評価され、選定された。

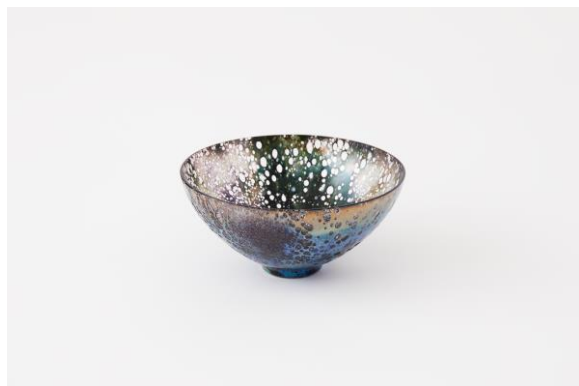
受賞者の声

この度はこのような賞をいただき大変光栄に思います。
漆器を気兼ねなく普段使いしていただくために、傷のつきにくい微粒面に仕上げました。これからも漆器に興味をもって頂けるような作品作りに励みたいと思います。



一般財団法人伝統的工芸品産業振興協会賞

江戸硝子「void~銀河の器 ~」 松浦健司（千葉県）



講評

ずっと軽やかで、かつ手頃な価格で国宝を使っている気分にもなり、夢のある作品だとして評価され、選定された。

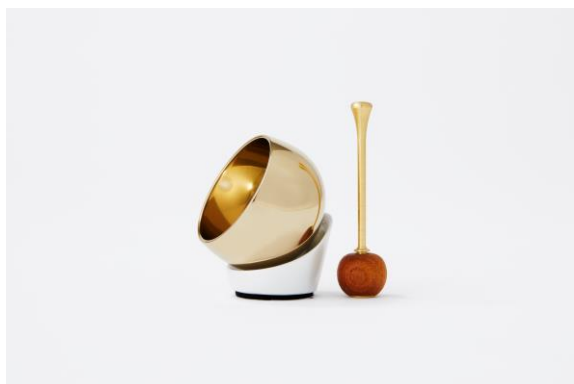
受賞者の声

入賞できた事、とても嬉しく思います。これからもガラスの魅力を多くの方に伝えていけるように頑張ります。



日本伝統工芸士会会長賞

高岡銅器「アストロリン」 株式会社山口久乗（富山県）



講評

現代的な洗練されたデザインに加え、音色を追求した工夫、また手頃な価格と、伝統産業を未来へつなげる意欲を大いに感じる作品だとして評価され、選定された。

受賞者の声

素直に嬉しいです。誠に有難うございます。おりんの音色は不思議です。祈りのための至上の音でありながら、どこことなくあたたかく、何かにまもられているような感覚を与えてくれます。仏具以外でもごく日常でお使いになり、その響きで日々を心豊かに感じていただければ幸いです。



若手奨励賞（2作品）

近江上布「生平手織 名古屋帯」山口礼子（滋賀県）



講評

生平に変化をもたせた、よく考えられた構図の作品だとして評価され、選定された。

受賞者の声

この度は受賞を賜りましてありがとうございます。
素朴な生平に世界が広がる少しの変化を持たせたいと思いながら織りました。
近江上布の後継者として思い描いているアイデアを1つずつ実現できるよう日々技術の向上に努めていきたいと思っています。



江戸切子「彗星」北白聡志（東京都）

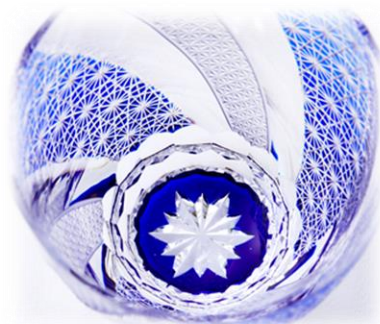


講評

伝統的技法を駆使しつつも、磨きに仕事の丁寧さを感じ、カットの組み合わせが美しい。これからも期待が持てるとして評価され、選定された。

受賞者の声

ガラスの透明さ、輝きを大切に製作しました。
今回このような賞をいただき大変光栄です。
これからも多くの方に硝子の美しさを楽しんでいただけるよう精進してまいります。



笠間焼「灰釉八角皿」 小林哲生（茨城県）



講評

国内外に限らず好まれる色合いで伝統を感じさせつつ、見た目の重厚さに反して手に心地よい軽さ、料理に合う使い勝手の良さがあり、使ってみたいと思わせる作品として評価され、選定された。

受賞者の声

「バイヤー賞」ありがとうございます。八角形は縁起が良いとされ、自分としても思い入れの強い形のお皿でしたので、大変うれしく励みになります。



長崎はりこ「吊るし猫」 堀田孝（長崎県）



講評

大きな作品にも関わらず張り子らしさが損なわれず、肉球までも表現したかわいらしさと、商品展開のしやすさが評価され、選定された

受賞者の声

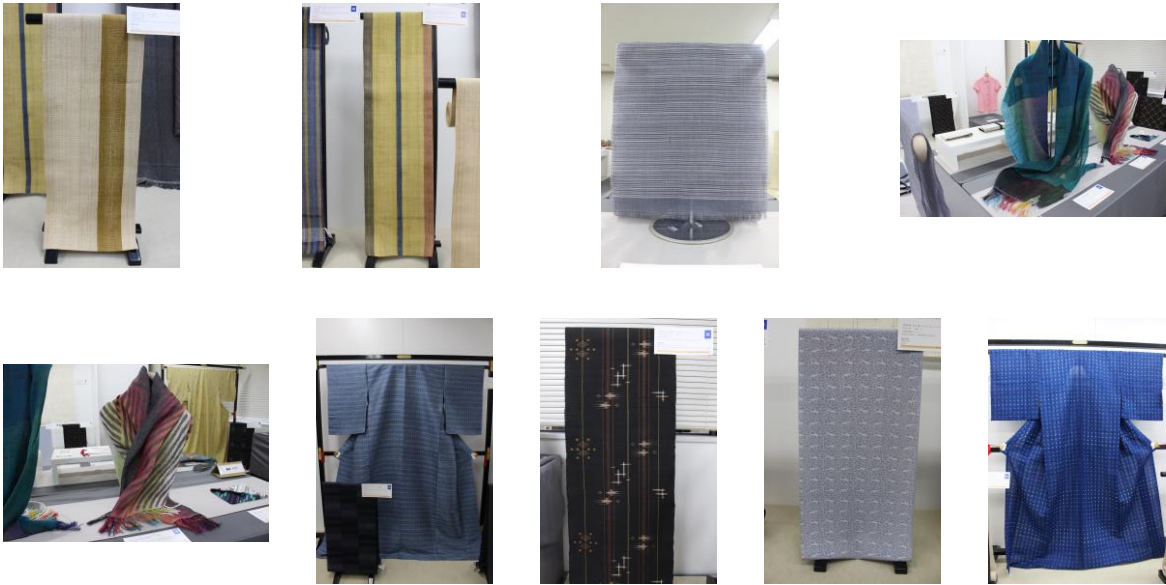
今回、このような賞を賜りまして、誠にありがとうございます。
この「吊るし猫」は、元々長崎のインバウンド向けに考えた【FLYING CAT】シリーズのひとつですので、新しい試みの作品が受賞できましたこと、大変うれしく思います。これを機会に、より一層長崎はりこの創作に精進してまいりたいと考えております。

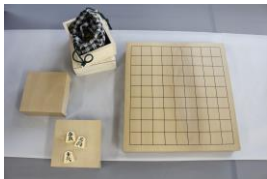
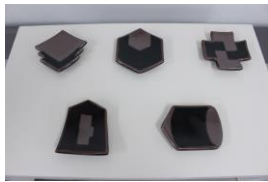


応募概況

業種	応募作品				応募者			
	指定 産地数	非指定 産地数	産地数 計	出品数	男性	女性	企業 団体	計
織物	9	5	14	28	6	17	2	25
染色品	7	1	8	18	8	4	1	13
その他繊維製品	0	2	2	2	0	2	0	2
陶磁器	12	4	16	26	20	4	0	24
漆器	7	4	11	19	16	0	2	18
木工品	8	6	14	19	16	1	1	18
竹工品	1	1	2	2	1	1	0	2
金工品	4	2	6	13	6	2	0	8
仏壇・仏具	2	1	3	4	0	0	3	3
和紙	0	2	2	2	1	1	0	2
文具	1	0	1	3	1	0	1	2
貴石工品	0	0	0	0	0	0	0	0
人形・こけし	0	0	0	0	0	0	0	0
諸工芸	9	6	15	23	14	5	2	21
材料・用具	0	0	0	0	0	0	0	0
コラボ	2	3	5	7	4	1	1	6
合計	62	37	99	166	93	38	13	144
指定＝経済産業大臣指定伝統的工芸品、非指定＝経済産業大臣指定を受けていない工芸品								

入選作品 写真（49作品）





入選作品 一覽 (49作品)

工芸品名	出品者名	作品名	都府県
二風谷 アットゥシ	貝澤雪子	SO(ソ) ～滝	北海道
二風谷 アットゥシ	貝澤雪子	CUK(チュク) ～秋	北海道
蓮糸織	斉藤 佳代子	古代素材と現代の融合Ⅳ	東京
近江上布	寺田知司	prism stole (緑水玉段替え緋)	滋賀
近江上布	寺田知司	prism stole (灰斜文段替え緋)	滋賀
鳥城紬	須本雅子	淡淡と	岡山
久米島紬	宮平トシ子	クジリゴーチ 1 玉	沖縄
東京染小紋	廣瀬雄一	シャーク	東京
有松・鳴海絞	山口善照	雪の夜の光芒	愛知
京友禅	SOO (ソマル)	京友禅手染め絹の眼鏡拭き 「おふき」	京都
京友禅	堤信雄	引染帆布ショルダーバッグ	京都
琉球びんがた	永吉剛大	総柄小紋「雨だれ」 仮仕立て	沖縄
笠間焼	佐藤剛	笠間色 手塩に掛けた変りおてしよ	茨城
三州鬼瓦工芸品	梶川賢司	守護鬼瓦シリーズ スマホス ピーカー (ホルダー)	愛知
常滑焼	梅原淳	ほっこり急須コーヒー	愛知
九谷焼	谷口亘	四季の富士	石川
九谷焼	福田良則	2個組 ワインカップ 黒釉、赤釉金盛鳳凰文	石川
九谷焼	三浦晃禎	青華金彩幻華文 珈琲碗皿揃	石川
萩焼	小川浩延	萩莖釉窯変角皿	山口
村上木彫堆朱	小杉和也	3WAY 四季のプレート	新潟
輪島塗	齋藤弘茂	湯のみ 海老で鯛を釣る～鯛きたる	石川
山中漆器	針谷崇之	七宝蒔絵白蝶貝ペンダント& ピアス	石川
輪島塗	北濱幸作	日月紋塗 小鉢	石川
輪島塗	吉田宏之	さしいろ皿	石川

漆	Whole Love Kyoto	ICE CREAM GIFT	京都
樺細工	木元明彦	総皮茶筒「花零れ」	秋田
奥会津編み組 細工	矢部晋也	山葡萄花結び編みかご	福島
碁盤	吉田智士	碁・将棋兼用ミニチュア盤 set (囲碁10路)	埼玉
碁盤	吉田寅義	流星群	埼玉
春日部桐箆筥	小野歌舞都	桐六角疋寄せ脚付き中三つ	埼玉
加茂桐箆筥	三本和好	手許箆筥龍神	新潟
播州そろばん	株式会社 ダイイチ	そろクロ グレート	兵庫
京竹工芸	細川秀章	網代編ブリーフケース	京都
南部鉄器	大村敏宏	鉄瓶「さざ波」	岩手
南部鉄器	菊池飛鳥	鉄瓶 点心	岩手
南部鉄器	佐々木奈美	筒形南天模様	岩手
南部鉄器	佐々木奈美	フラワーリース	岩手
南部鉄器	高橋大益	南部丸形鉄瓶 「風車と灯台」	岩手
南部鉄器	畠山拓巳	団栗型鉄瓶 コロ丸	岩手
東京仏壇	hitoe 榎本大輔	KASANEgi (ネックレス・ピアス)	東京
編み組み細工	八幡義友	すすき模様の山ぶどうかご	岩手
如雨露	根岸洋一	銅製英国型如雨露0.5号	東京
江戸切子	山崎祥	七宝紋オールドグラス	東京
甲州印伝	芹澤依子	ポウタイ -パットウィング-	山梨
甲州印伝	山本裕輔	烏羽 (財布・ カードケース)	山梨
京表具	田中善茂	絞り紙アートパネル	京都
丸亀うちわ	小松富士男	柿渋鯉うちわ対	香川
堺打刃物 肥後象がん	山本真一郎 麻生 翼	和ベティ NT 「桜」	大阪
東京銀器	いづみけん	銀製ぐいのみ「酔拳」 5 個組	東京



審査委員長 東京芸術大学名誉教授 重要無形文化財「髹漆」保持者 増村 紀一郎

令和元年12月11日、今年度の全国伝統的工芸品公募展の審査会が一般財団法人 伝統的工芸品産業振興協会で開催されました、今回で44回を数えます。本年の応募総数は166点、昨年は175点でしたのでやや少ない作品数となりました。

本公募展の審査は「専門部門」と「バイヤー部門」に分けて実施されました。

専門部門の担当は陶磁器が岐阜県セラミック研究所の小稲彩人氏、金工品が東京芸術大学美術館教授の黒川廣子氏、織・染が棚町敦子氏、諸工芸が江戸切子作家・伝統工芸士会副会長の林克美氏、木工品が東京国立近代美術館主任研究員の北村仁美氏、漆器が漆芸家で東京芸術大学名誉教授・重要無形文化財保持者の増村紀一郎が行いました。

バイヤー部門の担当は（株）高島屋日本橋店呉服部長の宇野万貴子氏、経済産業省・伝統的工芸品産業室の木下宏一氏、工芸ライターの田中敦子氏、クラフトバイヤーの日野明子氏、（有）T-POT代表取締役の御手洗照子氏、一般財団法人伝統的工芸品産業振興協会・代表理事の宮川孝昭氏で行いました。

審査は公募展に応募した方々は承知の要項に記載の5つの審査基準により上記の審査委員12名が投票した結果、2票以上を獲得した62点を入選作品としました。本年は104点が選外となる厳しい状況になりました。

次に受賞候補となります作品ですが、審査委員の投票数が3票以上の物、24点がノミネートされた作品に選出されました。

受賞作品の選出には次にあげる、技術・機能・デザイン・市場性など4つの注目ポイントを考慮して投票しました。結果は以下ようになりました。

内閣総理大臣賞は 山中漆器「むらくもカップ 朱・白」（有）浅田漆器工芸（石川県）の作品が上記の4個のポイントを満たしている点が評価され選出されました。

山中漆器が誇る高度な伝統技である木を薄く挽く轆轤仕上げの木地、その上に炎から生れる煤を表面にくゆらせる、遊び心のある漆塗りの表現が洒落ています。日本の器を評価する言葉に、名品に重いものなし、まことに賞に相応しく思います。

経済産業大臣賞は、鎌倉彫「渦紋組皿」奴田伸宏（神奈川県）の作品は上記のポイントのうち市場性（作品と価格のつり合い）による評価からこの賞となりました。伝統的な従来の鎌倉彫は新作であるのに朱漆塗りに真菰粉などを蒔く技法で古びを付けて、時代を感じるものでなく、黒漆に銀色粉を蒔くことで金属製品と思わせる意外性も興味深いです。

経済産業省製造産業局長賞は、仙台筆筍「俵飩式小筆筍 万年筆仕様」菅野祐喜（宮城県）の作品は前作品と同じ評価による受賞です。伝統的な仙台筆筍は櫛指物に漆塗りに重厚な鉄金物を思い浮かべる方々が多いと言えます、受賞作の引出し内部は革が優しく万年筆を包むように張られています。かつて時絵の万年筆は輸出漆器の花形でもあり、今でもコレクターは多くいます。作者が修業期に身につけた経験と技術を生かして現在日本で必要な物を制作する成功例と言えるでしょう。

中小企業庁長官賞は、木工芸品「田・凳（てん でん）」羅琪（東京都）。作者は台湾藝術大学大学院で漆芸と木工芸を専攻修了後、東京芸術大学大学院（木工芸）研究生を修了し、そのあと日本の企業で働く若手です。飛行機から見た、田の風景を椅子の座にデザインした畳表が美しい、控えめな色彩は優しいインテリアアート作品と言えます。

日本商工会議所会頭賞は、大阪浪華錫器「錫 タンブラー 群星（5色）」大阪錫器株式会社（大阪府）が選出されました。かつて日本でも錫製の酒器や茶器を来客時に日常的使いとする家は多くありました。2020年は東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。器の側面を五輪旗の色に塗り、染布にある小紋柄様の文様が可愛らしく、錫器を使う習慣のある外国への輸出やインバウンドへの期待が持てると評価されました。

全国商工会連合会会長賞は、江戸指物「市松小引出箱」根本一徳（東京都）が選定されました。木工芸の江戸指物は歴史的に苦勞を見せないことを「粋（イキ）」な仕事として評価してきました。組手や継ぎ手を目に見せないように仕上げる事が自慢話になるのです。この作品の見どころはそこにあります。

全国中小企業団体中央会会長賞は、津軽塗「プレート」白川明美（青森県）が選定されました。伝統的な七々子塗の盤です。中塗りの上に日章旗様に上塗りをし、その上に菜種を蒔き、見た目は子持ち昆布状態です。漆が種の周囲に盛り上って乾きます。種を除き表面を整えると陶器をのせてもキズが付きません。美しく丈夫で手ごろな価格も評価されました。

一般財団法人伝統的工芸品産業振興協会賞は、江戸硝子「void～銀河の器～」松浦健司（千葉県）の作品が選出されました。4個のポイントでは薄造りの技術と宇宙空間の銀河を連想するデザインが評価されて受賞しました。近年は大勢の若手ガラス作家が工芸の世界で活躍を見せていますので、ぜひ研究を進めてほしいです。

日本伝統工芸士会会長賞は、高岡銅器「アストロリン」(株)山口久乗（富山県）が選出されました。4個のポイントでは洗練されたデザインと優しい音色を追及している点、手頃な価格、伝統産業の未来を感じる作品として評価されました。

若手奨励賞は、近江上布「生平手織 名古屋帯」山口礼子（滋賀県）が選出されました。この賞は応募者の従事年数が15年以内の作品から選出しました。生平とは広辞苑によると経緯とも苧麻・大麻で織ったあらゐ未晒しの麻布とあります。受賞作品は素材が発する見た目と手触りを楽しむための作品として評価されました。

若手奨励賞は、江戸切子「彗星」北白聡志（東京都）が選出されました、同じく若手のガラス作家の作品です。クリスタルの表面をグラビールでカットされた文様を組み合わせる感覚と丁寧な研磨技術から期待が持てる若手として評価されました。

バイヤー賞は、バイヤー審査委員の推薦により選出するものですが、笠間焼「灰釉八角皿」小林哲生（茨城県）の作品が選出されました。その評価は国内外に限らず好まれる色合いで伝統を感じさせつつ、見た目の重厚さに反して手に心地よい軽さ、料理に合う使い勝手の良さがあり、使ってみたいと思わせる作品として選定されました。

バイヤー賞は、長崎はりこ「吊るし猫」堀田孝（長崎県）。同じ賞ですが委員たちの評価は、大きな作品にも関わらず張り子らしさが損なわれず、肉球までも表現したかわいらしさと、商品展開のしやすさから選定されました。

以上、受賞された方々おめでとうございます。常日頃の精進努力と研究が実を結んだと思います。受賞作品の内訳を確認すると、漆芸3点、木工芸3点、金工2点、ガラス2点、繊維1点、陶磁1点、諸工芸1点の合計13点と各工芸領域に平均したと考えられます。

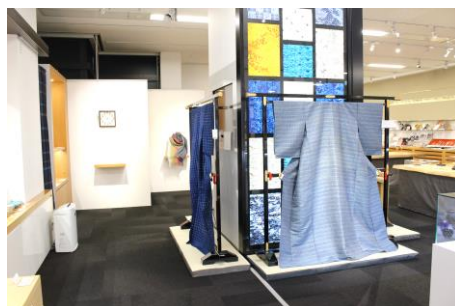
今年2020年は夏季東京オリンピック・パラリンピックが開催されますが、1964年にも東京オリンピックが開催されました。新幹線の開通に高速道路にホテルの建設とまさに「伸びゆく東京と発展する日本」を具現化しました。しかし、2度目の今回は64年とは随分と違いがあります。例えば高齢化率（65歳以上の人口）は当時約6%でしたが、2020年は約30%になります。目標も成熟、「住みやすい東京・暮らしやすい日本」を目指すべきだと思います。高齢化社会のなかハード・ソフト両面でのバリアフリーは備えとすべきです。工芸品制作は人間の生活と密接な関係にあります。ユニバーサルデザインなどは、現状の社会を考える重要な要素になるでしょう。

公募展 入選作品展

入賞・入選した62点の作品展を行いました。



会 期 : 2019年12月20日(金)～2020年1月9日(木)
会 場 : 伝統工芸青山スクエア／東京都港区
販売点数 : 21点(受注商品含む)



東京アメリカンクラブ Frederick Harris Gallery

入賞・入選した40点の展示販売を行いました。



会 期 : 2020年1月14日(火)～2020年2月10日(月)
会 場 : Tokyo American Club／東京都港区
販売点数 : 7点





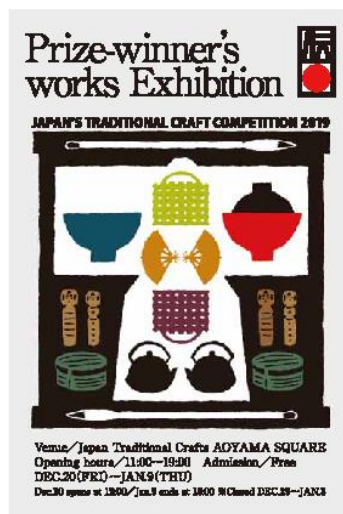
ポスター・
チラシ（表）



チラシ（裏）



DM
（日本語）



DM
（英語）

オンラインショップ

受賞作品を対象に「伝統工芸 青山スクエア」のオンラインショップにて「特設販売ページ」を設けました。



授賞式

2019年度 全国伝統的工芸品公募展の授賞式を受賞者12名にご参加いただき、執り行いました。

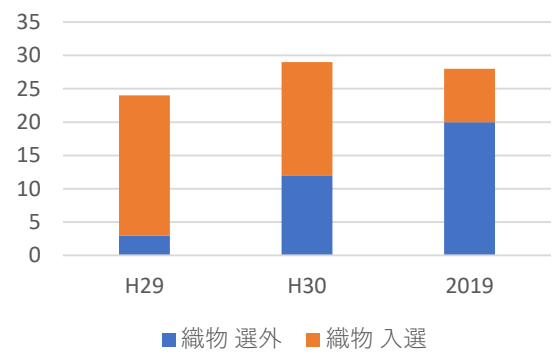
日 時 : 2020年1月17日 (金)

場 所 : 明治記念館 「丹頂」

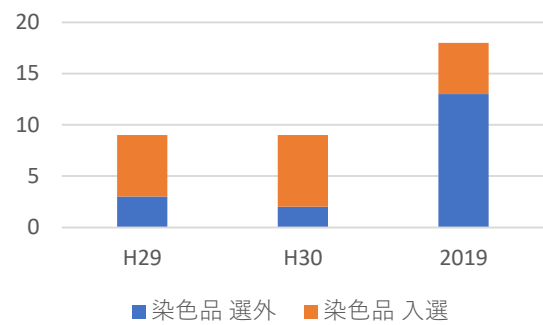


工芸品別 過去3年間の応募数推移

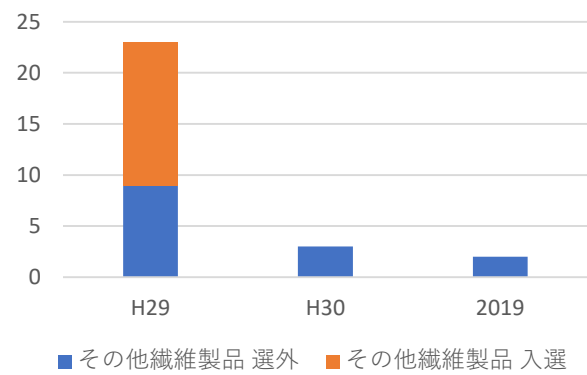
織物



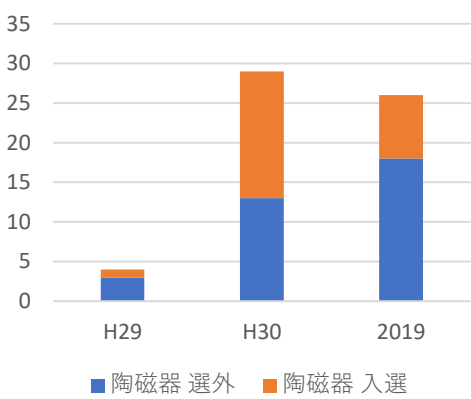
染色品



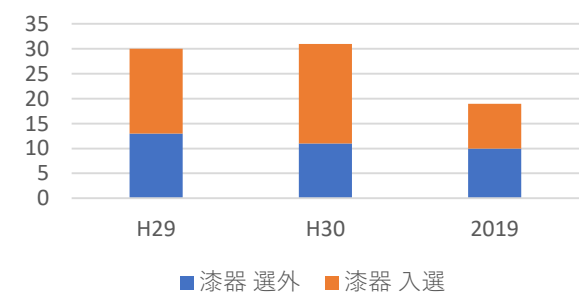
その他繊維



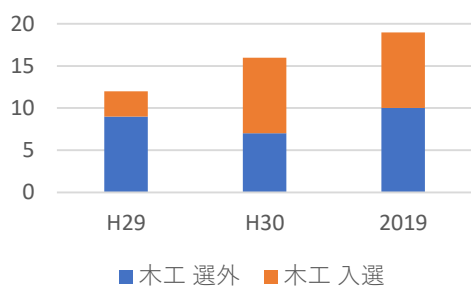
陶磁器



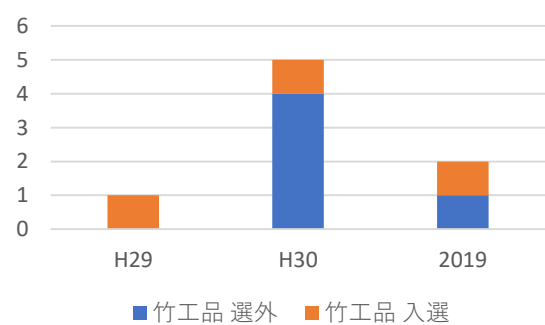
漆器



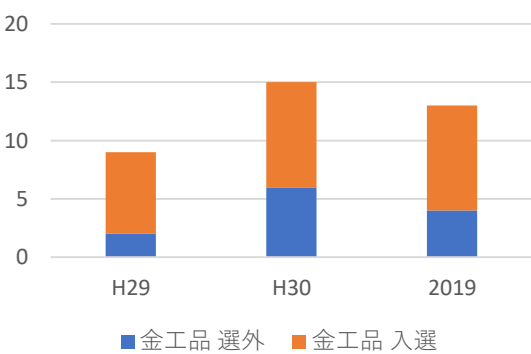
木工品



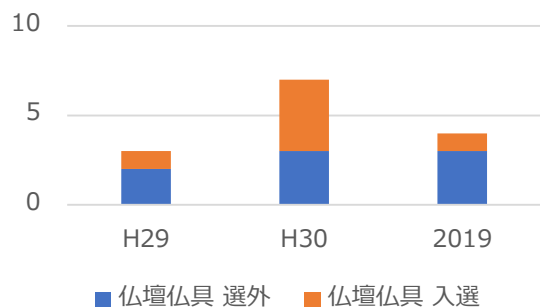
竹工品



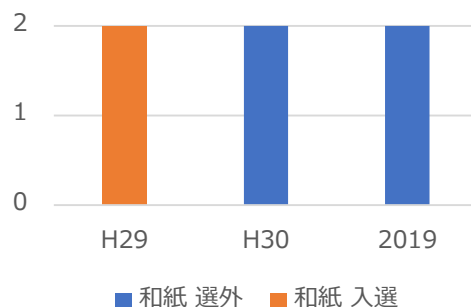
金工品



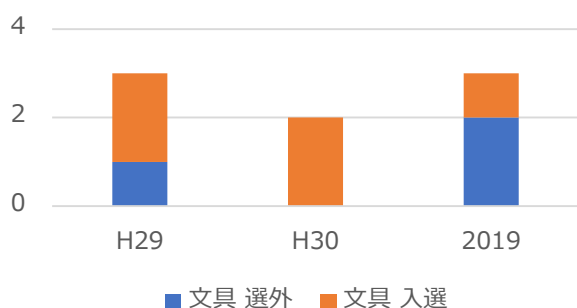
仏壇仏具



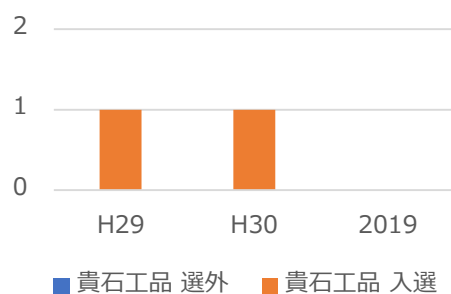
和紙



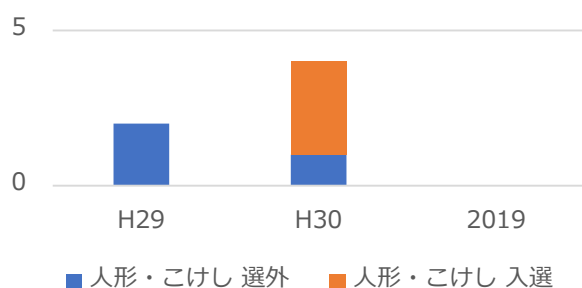
文具



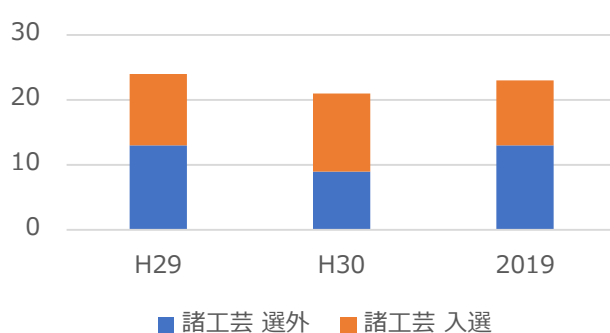
貴石工品



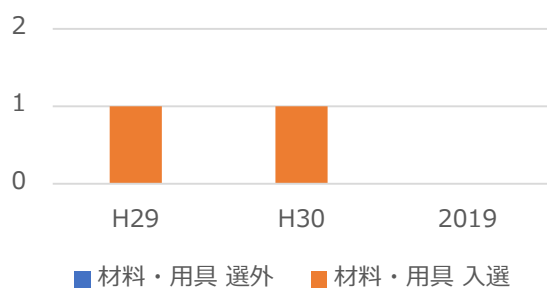
人形こけし



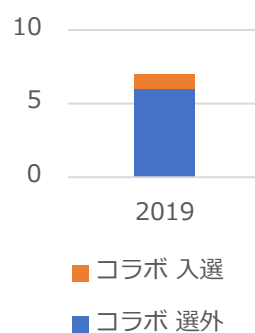
諸工芸



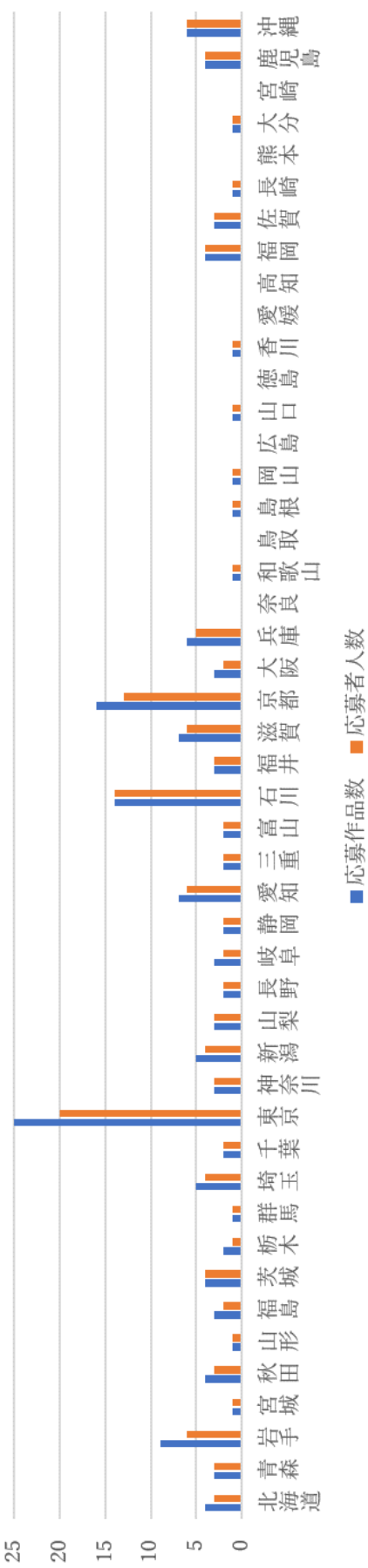
材料・用具



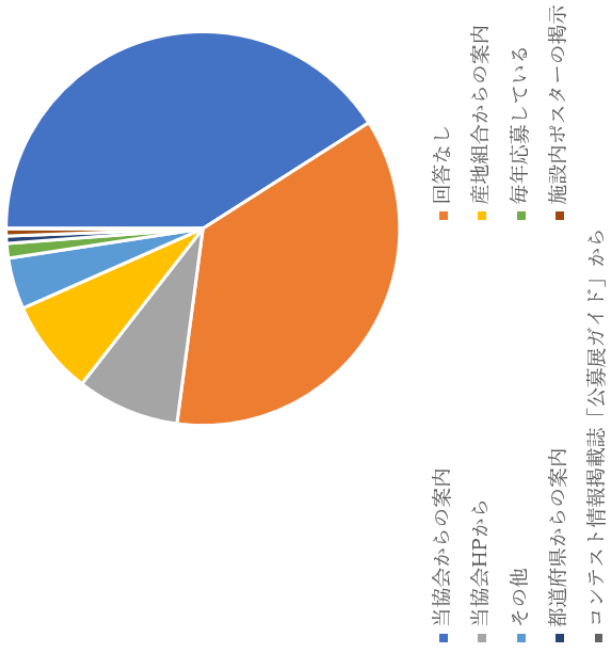
コラボ



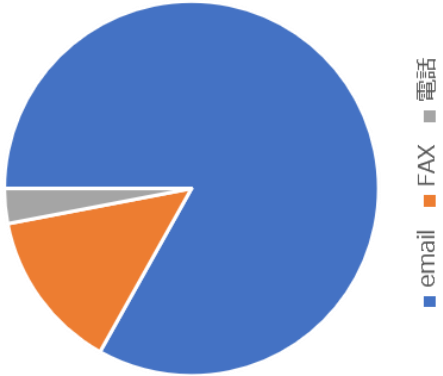
県別応募件数



公募展の応募をどのように知ったか



応募者との連絡方法





一般財団法人 伝統的工芸品産業振興協会
〒107-0052 東京都港区赤坂8-1-22
TEL 03-5785-1001 FAX 03-5785-1002
kikaku@kougei.or.jp <https://kyokai.kougeihin.jp/>

